

一つ走らして貰ひますでござります『サア〜走つて貰はう』アイ〜……『ナア、是りやア出駕籠にしてはエライ上手に昇ぐわい、なか〜旨いものぢや』エ、私等ア住吉街道で育つたものぢやござりません、東海道木曾街道を股に掛けて來ましたので、其の時分には貴方年も若うございましたから何うも彼奴等兩人にやア追ひ付かねえ宙飛如く遣るから、是れがほんとうの雀駕籠だらうと、仲間の方に言はれたんです『何ぢや、急に江戸ッ子になり居つた、マア宙飛ぶ如くに遣るさかいに雀駕籠は面白いなア、けれども駕籠は些とも鳴かんア』ヘエ『イヤ、雀ツと言ふものはチュウ〜と啼くものぢやが、啼かんア』『イエ雀駕籠と言ふのですが、別に雀の啼き聲する譯ぢやアござりません』然うか、然う言はんと一つ雀の啼き聲で走つてお呉れ、チュウ〜と『何うも極りが悪うござります』極りが悪いことがあるものかい、遣つてお呉れ早う『オイ、旦那の御所望だ、雀の啼き聲で遣れと仰しやる』其様なことを遣れるものかい『マア遣つて見い、また夫れだけのお心持はあるわい』早う雀を遣らんか『ヘエ……催促して居なさる、チュ、チュ……』チュ、チュ、何うも具合が悪いなア……チュ、チュ、チュチュチュツチュツ……『チュ、チュ、チュ、チュツチュ……』是りやア面白い『貴方は面白いが知らんが、私等ア阿呆らしうござります……チュチュ、チュチュツチュツハ、夫れを一つ鳥で遣つて貰はう鳥で』オヤ〜注文が變つて來た……カ、カ、カカカツカツカ、カカカツカツカ……『ア、面白い、鶯で遣

れ鶯で』ヒューヒヨロ〜ヒヨロ〜ヒューヒヨロ〜……『コレ蹠蹠くな、是れは何うも可かん夫れなら矢ツ張り雀にして置け』ヘエ、夫りやア、雀の方が遣り能うござります……チュ、チュ、チュ、チュ、チュツ、チュツ、チュツチュチュ、チュ、チュツ、チュツチュ『オイ〜雀を止めて鶯で一つ遣つてお呉れ……コレ立止つて何うや鶯を遣らんかいな』旦那様鶯は遣れませんかもう少し籠馴れませんかよつて』

此齣の口演者

住吉籠に就て

此齣の『落』は雀駕籠と云ふのを採りました、別に蜘蛛駕籠と云ふ『落』がありますが是は後日に出來たものでもあり且専門語で云ふ芋つぎと云ふ形式で餘り面白くありませんので排しました

- 故 二代目林家竹枝(俗に碁盤屋の竹枝と云ふ)
- 故 桂 梅 丸(ツボラ詭の梅丸と云ふ)
- 故 笑福亭福松
- 故 桂文左衛門
- 故 笑福亭梅香(呑んだの梅香と云ふ)
- 故 七代目桂 文治
- 故 三代目桂文團治
- 現 林家 染丸
- 現 桂 三木助